

2025 年 7 月 20 日

オモロー授業発表会 in 多可町 講演要旨

「共に学んでオモロー」 ～通常学級でのインクルーシブ教育～

藤原友晴

要旨

本学習会では、小学校教員である藤原が、インクルーシブ教育の実践について詳しく説明しました。藤原は、A 市で初任として勤務し、重度の障害を持つ子どもも通常学級と一緒に学ぶインクルーシブ教育を経験し、その後 N 市に異動したと述べました。学習会の参加者の約 3 割がインクルーシブ教育という言葉を知っており、藤原は日本のインクルーシブ教育が世界と比べて遅れていることを指摘しました。

藤原は、従来の一斉授業形式の問題点を挙げ、できない子どもを生み出してしまう構造について言及しました。その解決策として、3 つの作戦を提案しました。

- ①「ICT ツールの活用」
- ②「ジェスチャーを取り入れた多感覚学習」
- ③「協力し合う班活動」

具体的な実践例として、4 年生の漢字が苦手な子どもを対象とした「漢字の広場」の授業を月 1 回実施したことを紹介しました。

実践では、教師用指導書のふりがな付きデータを子どもたちと共有し、「パドレット」というアプリを使用してリアルタイムで意見交流を行いました。また、「鼻血」や「歯」などの漢字を読む際に動作を取り入れることで、楽しく学習できるよう工夫しました。最終的に作文を劇として発表することで、子どもたちの参加意欲を高めました。藤原は、4 人班での活動が 35 人学級での参加を促進するのに効果的であると述べ、「みんなで○○しよう」という目標設定の重要性を強調しました。